

経済学部A方式 I 日程・社会学部A方式 I 日程・現代福祉学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60 分)

| 科 目 | ページ | 科 目 | ページ |
|-------|-------|-------|-------|
| 政治・経済 | 2～20 | 日 本 史 | 22～40 |
| 世 界 史 | 42～60 | 地 理 | 62～67 |
| 数 学 | 68～69 | | |

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学は以下の注意事項に従うこと。
 - ・ 解答用紙の所定の欄に受験学部を○で囲むこと。
 - ・ 解答を導く途中経過も書くこと。
 - ・ 解答はおもて面と裏面の所定の欄に記入すること。
 - ・ その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - ・ 定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

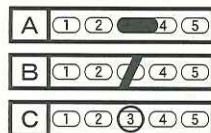
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(世界史)

〔I〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

古代インド史は、いまだ解明されていないことが多い。その理由には、インド史の舞台が地理的に広大なものであり、かつ民族・宗教・言語・習俗等の文化的諸領域においても非常に多様であるということがある。さらに、より特徴的なこととして、インド人の歴史観と関係するためか、史実を正確に踏まえた史料的文章が少ないことがあげられる。しかしながら一方では、「このようであった」という形で残される讃歌、叙事詩、口誦・伝承記録や法典などは膨大な量があり、これらの⁽¹⁾文学、宗教文献、遺址、遺物から、当時の支配体制、経済、社会、生活状況など、古代インドを知る上で豊富な知識を得ることができるのである。

古代インド文明で有名な遺跡である 地方にあるハラッパーやシンド地方のモエンジョ＝ダロなどには、その発掘調査からきわめて高度な都市文明が栄えていたことが明らかとなっている。だが、印章などに刻まれているインダス文字はいまなお未解読であるため、文明を築いたのが誰なのか、その社会構造や政治形態、あるいは文明が衰退した理由などについては解明されるには至っていない。

紀元前1500年ころから、インド＝ヨーロッパ語族の一派である 人がカイバル峠から侵入し、先住の民族を征服、融合しながらインド文明の主流を形成していった。これ以降の古代インドの文化、宗教、統治形式、社会・経済状況などについては、インド最古の聖典の総称である をはじめ、その後作られる叙事詩や法典などの文献から推察することができる。 はバラモン教の根本聖典であるが、歴史研究の重要史料でもあり、そこから、インダス文明の道具や農具よりもすぐれたものが作られ、バラモンと部族の王とが社会的に優越した地位にあり、祭祀を重要視するバラモン教が発展していたことがわかる。

紀元前1000年ころから、これらの人々は 川流域へ移動し始め、多くの都市国家を建設していった。この時代についての主な文献史料には、奥義書と

もよばれる宗教哲学書の [2] や、祭式の意義や細則、あるいは讃歌や祭詞の解釈を説明したブラーフマナなどがあり、それらのなかに人々の移動や建国の様子が語られている。

紀元前6世紀になると、多くの都市による激しい生存競争の末、生き残った強いところが他を併合し、しだいに領域国家へと成長していく時代となった。そうしたなか、経済力をつけ勢力を伸ばしてきた人々によって呪術的思惟を積極的に排斥する運動がおこり、それらに支えられて仏教や [ア] を始祖とするジャイナ教といった非バラモンの宗教が生まれた。⁽²⁾ この時期の様子は、特にこれらの聖典のなかにみることができる。例えば仏教聖典では、当時の大国を16大国と総称してその国々の名があげられている。そのなかでもはじめのうち最も強力だった王国は [①] 国であり、その後同国はマガダ国に併合された。

紀元前4世紀後半のアレクサンドロスによる西北インドへの侵入は、翌年退軍を余儀なくされ短期間で終わったものの、インド史においてきわめて重要な意味を持つと評価されている。それは第1に、ギリシア人の記録によってはじめて確実な年代記を編む出発点がインド史に与えられたこと、第2に、インド人自身による古代インド最初の統一帝国を生み出す基盤が形成されたことなどからである。

アレクサンドロスが侵入した当時、 [C] 川流域の主要地は [②] 朝が統治していた。しかしわずか30年ほどで滅び、インド最初の統一王朝 [③] 朝が樹立された。創始者である [イ] は、都をパーティプトラにおき、アレクサンドロスの死後、ギリシア人勢力を一掃してインド統一の基礎を固めた。そして第3代王アショーカの時、南端部を除く全インドの統一が達成されたのである。アショーカ王は、 [④] 国を征服した時の惨状から、以後は熱心に仏教を信仰するようになり、第3回仏典結集を行い、シャカの遺骨を納める多くの [3] を建立した。さらには、各地の王や高官に人間の普遍的な倫理としての [4] の実現に努めるよう呼びかける詔勅文を、石柱碑や磨崖碑に刻みこませた。各地に現存するこれらの碑文は、歴史書という性格をもったものではないが、王の治世のできごとについていくつかの重要な記述を含み、王自身についてもいきいきと描かれており、価値の高い史料として評価されている。

その後西北インドには、アレクサンドロスの遠征時に残ったギリシア人の子孫

世界史

が建てたバクトリア，続いて中央アジアのイラン系遊牧民などが進出したが，紀元後1世紀になると [⑤] 朝が樹立された。この王朝の最盛期を築いた [ウ] 王の治績については，仏教の典籍，伝承，貨幣，碑文などからある程度のことは知られる。彼は都を [D] として，仏教を保護し，首都の近郊に大塔を建立，また第4回仏典結集を援助した。この時代はローマ貨幣の重量基準や通貨単位に準拠した [5] が多量に発行されており，当時のインド・ローマ貿易の隆盛を知ることができる。また，そこには諸民族の神像が刻まれていることから，文化の差別政策はとられず，そのため他文化と融合した美術も発展したことがわかる。

紀元前1世紀から紀元後3世紀にデカン高原から南インドにかけて有力となったのは [⑥] 朝であった。この王朝は，北から多数のバラモンを招くなど積極的に [B] 文化を導入し，北インドと南端部インドとの文化的・物質的交流における架け橋として大きな役割を果たした。異民族の侵入が相次ぎ，伝統的な秩序の崩壊を目の当たりにして危機感を抱いたバラモンたちは，ヴァルナごとの宗教的・社会的義務と生活規範を規定した法典 [6] を作るよう努力し，その集大成としてできあがったのが [7] である。ここには，正統派バラモンの理想とする家族像，女性の地位，食事の内容などが書かれており，のちのインド社会に決定的な影響を与えた。他方，インド南端部では，紀元前10世紀ころから紀元前4世紀まで，ドラヴィダ系民族が担ったとみられている独自の文化が存在した。南端部の諸勢力について記す最初の確実な史料は，紀元前3世紀のアショーカ王碑文である。それによると当時この地には，4大勢力が存在していたが，おそらく [③] 朝との接触によって刺激を受け，王国形成への歩みを早め，その結果，最盛期にはシュリーヴィジャヤ王国への遠征も行った [⑦] 朝や最南端のパーンディヤ朝などの勢力が並び立つ情勢がつづいた。これらの王朝時代には，紀元前後から [E] 語を使用した文芸活動がさかえた。

紀元後3世紀にはいると，北インドでは幾多の群小諸国が対立するようになり，これに乗じてグプタ朝が起こった。グプタ朝は第3代王チャンドラグプタ2世のときに最盛期を迎えた。この時代には純インド的な古典文化が発展し，宮廷生活の様子を描いた [8] の壁画は，グプタ様式の代表であり，日本の法隆寺壁

画にも影響を与えた。またブッダガヤーの大塔などからは、非常に強固な集権の統制支配であったこと、さらに、天文学や数学、医学などの書物から、当時これらの諸科学が発展したことが知られる。

グプタ朝滅亡から にインド最初のイスラーム王朝が誕生するまでの約650年間、北インドではごく一時期を除いて群雄割拠の状態がつづいた。この時代の王のなかでも最も史料が豊富にあるのは、606年に即位し、分裂状態にあった北インドの大部分を統一した 王である。というのも、彼の宮廷詩人として活躍したバーナが著した作品や、ナーランダー僧院で学んだ中国僧の弟子によって編集された に、王国の繁栄の様と王と僧の会見の様が記されているからである。さらにこの記録は仏教事情だけでなく、地理・歴史・風俗や政治・経済など多くの方面の内容をもっており、インド・西域研究の重要史料となっている。

問1 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | | | |
|---|--------|---|---------|---|-------|
| a | アーリヤ | b | アーンドラ | c | インダス |
| d | カナウジ | e | ガンジス | f | クシャーナ |
| g | サカ | h | サンスクリット | i | シャカ |
| j | シンド | k | シンハラ | l | 大月氏 |
| m | タミル | n | デリー | o | トハラ |
| p | パーリ | q | パンジャーブ | r | ヒッタイト |
| s | ブルシャブラ | t | マトゥラー | | |

世界史

問2 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|--------------|--------------|
| a アヴェスター | b アジャンター石窟寺院 |
| c インドラ像 | d ヴェーダ |
| e ウパニシャッド | f エローラ石窟寺院 |
| g 金貨 | h 銀貨 |
| i 後漢書 | j 実利論 |
| k ジャータカ | l ストゥーパ |
| m 大唐西域記 | n ダルマ |
| o ダルマ=シャーストラ | p 中論 |
| q 銅貨 | r ドーラヴィーラー |
| s 仏国記 | t マヌ法典 |
| u ミーナークシー寺院 | |

問3 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な人名を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|---------------|--------------|
| a ヴァルダマーナ | b カニシカ |
| c クジュラ=カドフィセス | d サムドラグプタ |
| e シャシャーンカ | f チャンドラグプタ |
| g チャンドラグプタ1世 | h ハルシャ=ヴァルダナ |
| i プシュヤミトラ | |

問4 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|---------|----------|------------|
| a ヴァルダナ | b ウマイヤ | c カリング |
| d クシャーナ | e コーサラ | f サータヴァーハナ |
| g チェーラ | h チャールキヤ | i チョーラ |
| j ナンダ | k パッラヴァ | l プラティーハーラ |
| m マウリヤ | | |

問5 下線部(1)に関連して、下記の空欄 ～ の作品内容としてもっとも適切なものを、下記の文章群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

| | |
|--------------|--------------------------------|
| ラーマーヤナ…………… | <input type="text" value="あ"/> |
| シャクンタラー…………… | <input type="text" value="い"/> |
| マハーバーラタ…………… | <input type="text" value="う"/> |

- a サン스크リット語で書かれた、北インドの部族内部の王位と領土をめぐる争いを主題とした大叙事詩。英雄クリシュナは大衆に親しまれた。
- b 動物を主人公としたサン스크リット語の寓話。グプタ朝に成立。
- c コーサラ国の王子が奪われた愛妻を救出する夫妻の物語。クシャトリヤ勢力の台頭を反映している英雄叙事詩であり、ヒンドゥー教の聖典とされる。
- d 食を乞うバラモンに自分の肉を布施しようと火中に飛び込んだ兔の話や、飢えた虎の母子を救うために身を投じた王子の話など、ブッダの前世における善行を語る物語。
- e サン스크リット文学の最高傑作とされ、仙人の娘と王の数奇な恋を主題とした戯曲。ゲーテは『ファウスト』序曲にその手法を利用した。
- f ラージプート族の王プリトウヴィーラージの恋と武勇を主題としており、初期ヒンディー語文学の傑作として知られる。

世界史

問6 下線部(2)に関連して、ブッダによる創始から多数の部派が誕生する(部派仏教)前までの仏教の説明として正しいものを下記の文章群のなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a バラモン教の祭式万能主義への批判と反省から生まれた。人間の運命は業に依存しており、業に決定づけられた輪廻からの解脱がえられるのは、宇宙の根本原理である「梵」と自我の根本原理である「我」の両原理が究極的に同一であると知覚することであるとした。
- b ヴィシュヌ神、シヴァ神などの三神をはじめとする多神教であり、特定の教義・経典はない。人々の日常生活の細部にまで関わり発展していった。
- c バラモン教のヴァルナ制を否定し、おもにヴァイシャ、なかでも商人から支持された。人生を苦と考え、この苦から解脱するために、徹底的な禁欲生活と苦行を説き、極端な不殺生主義をとった。
- d バラモン教のヴァルナ制を否定し、クシャトリアやヴァイシャから支持された。徹底した諸行無常観に立ち、人生を苦とした。人生苦を克服する実践方法として、極端な苦行と快樂を否定し、四諦・八正道を説いた。

問7 下線部(3)に関連して、中国から古代インドを訪問し、その記録を著した僧についての説明で間違っているものを下記の文章群のなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 法顕は、戒律の原点を求めてクシャーナ朝時代に訪れ、帰国後著した史料にその都を華氏城と記した。
- b 義浄はインドからの帰国途中、スマトラのシュリーヴィジャヤで『南海寄帰内法伝』を著した。
- c 三蔵法師とも呼ばれる唐僧は、仏教研究のために戒日王の時代のインドに赴き、その都を曲女城と呼んだ。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

ネーデルラント連邦共和国は、1568年にスペイン国王 に対して起こした反乱を契機としておこり、1648年に正式に承認された。共和国が終焉し国名を変更するまで、この国は欧州諸国の勢力争いとなる戦争のほとんどに関わり続けた。ここでは16、17世紀中の出来事を中心にみていこう。ネーデルラントとは低地という意味で、現在のベルギーとオランダにあたる地域があてはまる。この地は小さな所領に分かれる一方、早くから都市化が進んだ。ヘント(ガン)や などでは、イギリスから原料を輸入し、当時のヨーロッパの最先端の織物工業が栄えた。

ブルゴーニュ公女との婚姻関係によって、ネーデルラントは 家の領地となり、この領地の継承者となったカールは1516年からスペイン国王、さらに1519年には神聖ローマ帝国皇帝も兼ねた。東西を 家の勢力にはさまれた 朝のフランス国王フランソワ1世は神聖ローマ皇帝選挙に出馬してカールに敗れ、以降激しくカールと対立した。フランスは の支配をめぐっても 家と対立しており、フランソワ1世も へ遠征した。さらにフランソワ1世はオスマン帝国の と結び、 はウィーンを包囲した(第1次ウィーン包囲)。 戦争はカールとフランソワ1世の代では終わらず、1559年ようやく終結したが、 を荒廃させた。

一方、神聖ローマ帝国領下では、宗教改革と農民戦争が吹き荒れ、統治は不安定であった。フランスとの対立によって、皇帝はルター派との譲歩を余儀なくされた。しかしウィーン包囲への勝利後、皇帝はその譲歩を撤回し、これに反対してルター派のドイツ諸侯・都市が結成した 同盟に対しても勝利を収めた。その間、カールはネーデルラントを自身の基盤にしようと政治機構を整備し中央集権化をすすめ、1548年には17諸邦をまとめてネーデルラントを一つの統一体にしようとした。しかし彼のめざす中央集権的な政治体制は反発を招き、1555年 の帝国議会で結ばれた宗教和議では、各都市・諸侯に、カトリック派・ルター派いずれかの宗教の選択権が認められた。

この和議に従ってネーデルラント全体が一律に宗教的にはカトリックを選択し

世界史

たが、プロテスタントも浸透していたので問題となった。[A] は宗教弾圧や重税など圧政を強めた。対抗して一部の貴族や商人が集団を組み河と海を船で行き来しながら、ネーデルラント全体を徘徊し諸都市を武力で脅しつつ味方につけた。これには1571年に [キ] 沖の大海戦に勝利したスペイン軍も翻弄された。スペイン国王側近は、南部州を離間する策をとり、1579年南部州の一部が同盟を結んだ。それに対抗して北部7州を中心に [ク] 同盟が結ばれ、1581年には [C] が初代総督となるネーデルラント連邦共和国の独立宣言がなされた。

スペインは北部7州を再支配しようとしたが、イギリスとフランスがその行く手にたちふさがった。イギリスは1588年に [ケ] 海戦でスペインの海の支配力を大幅に減少させた。当時、陸路でスペイン軍がネーデルラントに辿りつくにはフランスを通過することが近道であったが、プロテスタントに寛容なフランス国王 [D] が行く手を阻んだ。この結果、北部7州は両国に守られる形となり、陸・海軍を発展させ、スペインのヨーロッパ外植民地を攻撃すると同時に、アジアにいたる独自のルートも1590年代から各都市の出資で開発され、1602年に東インド会社が設立された。⁽³⁾ 1609年から1621年まで、スペインは休戦条約を結び、共和国の独立を事実上認めた。

しかし、共和国内では、商都アムステルダムのある最も強力な [コ] 州の代表と、総督との間の権力争いが表面化した。その結果、共和国では軍を率いる総督派が力をもち、 [コ] 州代表は処刑された。そして、共和国は1621年に迫るスペインとの戦争再開をひかえ、すでにはじまっていた三十年戦争を [イ] 家を弱体化させる好機ととらえ、神聖ローマ皇帝側と対立していたベーメンの新教徒や神聖ローマ帝国領下のプロテスタント派を支援した。三十年戦争は宗教対立にとどまらない国際戦争となり、今日のドイツにあたる神聖ローマ帝国領内は荒廃した。共和国は、スペインと、当時スペインに併合されていたポルトガルに対し有利な戦争を展開し、ネーデルラント南部への拡張をはかるのみならず、アジアや南米の植民地を奪い、日本では両国をしりぞけ優先的な交易相手となった。また、バルト海地域への投資を行い、三十年戦争でプロテスタント側⁽⁴⁾についたスウェーデンの産業開発を後押しした。

共和国とスペインとの戦争は1648年に正式に終了したが、その後共和国内では再び総督と (コ) 州都市との対立が深まった。さらに、それまでは同盟を組んでいたイギリスとフランスが敵となり、それぞれと数回にわたって戦争を行った。イギリスとは海上権争いが行われ、1651年イギリスの (E) が、自国船を優先する条例を発令すると、第一次英蘭戦争がおこった。共和国に華々しい戦果はなく、インドネシア東部で1623年に起こった (サ) 事件の賠償金を支払うなどの譲歩をして、イギリスと1654年に和平を結んだ。この時、 (コ) 州代表者のデ・ヴィットは、総督職を空ける密約まで結び、その後陸軍を解体するなど、イギリスやフランスとの戦争を回避する政策をとった。

しかし、ヨーロッパ外地域で、1664年イギリス船が北米のオランダ拠点の (シ) を占領するなど紛争が続いたことを受け、1665年から1667年まで英蘭の海戦が再開され、オランダ艦隊はテムズ河を遡りロンドンに迫った。おりしもフランス国王 (F) が王妃にスペイン領ネーデルラントの継承権があると主張し、フランドル地方に侵攻した。フランスの進軍に脅威を感じた共和国は一転して1668年イギリスと和平を結び、協力して対抗した。⁽⁵⁾ところがイギリスとフランスは1670年に密約を結び、1672年にともに共和国に攻めいった。国民の怒りは軍備を解体したデ・ヴィットの惨殺にあらわれ、新総督が再創設した軍隊を率いて收拾につとめた。共和国にとって幸いであったのが、イギリスが1674年には停戦したことである。1689年、1701年、1740年とフランスは複数回にわたって領土の継承に介入し、戦争を起こした。これらの戦争には、イギリスとフランスとの植民地での争いが並行し、そこでイギリスが勝利した。このことと、ヨーロッパ内で、イギリスのみならずオランダ、神聖ローマ帝国諸邦、ポルトガルが勢力均衡をめざし対抗したことが、フランスの野望を妨げた。⁽⁶⁾

世界史

問1 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な人名を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-------------|-------------|
| a アンリ4世 | b ウィリアム2世 |
| c ウィリアム3世 | d オラニエ公ウィレム |
| e カール5世 | f カルロス1世 |
| g クロムウェル | h ジェームズ2世 |
| i スレイマン1世 | j チャールズ2世 |
| k フェリペ2世 | l フェリペ4世 |
| m マクシミリアン1世 | n メフメト2世 |
| o ルイ13世 | p ルイ14世 |
| q ルイ15世 | |

問2 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|--------------|------------|
| a アウクスブルク | b アムステルダム |
| c アラス | d アルマダ |
| e アンボイナ | f イタリア |
| g ヴァロワ | h ジブラルタル |
| i シュパイエル | j シュマルカルデン |
| k 神聖ローマ帝国 | l ゼーラント |
| m ニューアムステルダム | n ハブスブルク |
| o ブリュージュ | p ブルボン |
| q ホラント | r マルタ |
| s ユトレヒト | t レバント |

世界史

問3 下線部(1)に関して、オランダの独立を認めたウェストファリア条約は、神聖ローマ帝国を有名無実化させたが、神聖ローマ帝国が消滅するのは何年か。もっともふさわしいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 1763年
- b 1806年
- c 1848年
- d 1871年

問4 下線部(2)に関して、ネーデルラント共和国が終焉した年と同年成立した新しい国名の組み合わせとしてもっともふさわしいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 1789年－ネーデルラント王国
- b 1795年－バタヴィア共和国
- c 1806年－オランダ王国
- d 1815年－オランダ立憲王国

問5 下線部(3)に関して、東インド会社が1619年に商館を設置してもっとも重要な拠点を築き上げるバタヴィアは何島にあったか。もっともふさわしいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ジャワ島
- b スマトラ島
- c スラウェシ(サルベジ)島
- d モルッカ(マルク、香料)諸島
- e ボルネオ島

問6 下線部(4)に関して、三十年戦争後スウェーデンはウェストファリア条約で領地を獲得した。その地名としてもっともふさわしいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a アルザス
- b ザクセン
- c デンマーク
- d 西ポンメルン
- e ノルウェー
- f フィンランド

世界史

問7 下線部(5)に関して、このときオランダ・イギリスと同盟を結んだ国として、もっともふさわしいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a オーストリア
- b スウェーデン
- c デンマーク
- d ファルツ選帝侯領
- e プロイセン

問8 下線部(6)について、18世紀末から19世紀初頭にも、拡大するフランスに対し、諸国が対仏大同盟を数回結び対抗しようとした。それぞれの大同盟に関連した出来事の記述として、間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 第三回対仏大同盟では、イギリスが海戦でフランスをやぶったが、ロシア・オーストリアが大陸でフランスに敗れ、この同盟は崩壊した。
- b 第一回対仏大同盟は、オーストリアのレオポルド2世とプロイセンのフリードリヒ=ヴィルヘルム2世の提唱で、フランス革命の進展阻止とルイ16世の救援を諸国の君主に呼びかけて1791年に成立した。
- c 第二回対仏大同盟が結成された年に、ナポレオンはクーデターを起こし、総裁政府を倒した。
- d 対仏大同盟軍がナポレオンを破ったライプツィヒの戦いは、諸国民戦争と呼ばれている。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

南東欧とも呼ばれるバルカン地域は、民族・宗教などの構成が多様であり、「バルカン」が指す範囲も歴史的・政治的に一様ではない。

とくに、バルカンの近代は、「ヨーロッパの火薬庫」といった、第一次世界大戦の導火線の役割を果たした側面が強調され、激しい民族的対立・抗争が展開される地域、ヨーロッパ列強の活発な外交的介入を招く地域として扱われがちである。しかし、バルカンのほとんどの国は、長期に渡りオスマン帝国による統治を受け⁽¹⁾るという共通経験を持ち、近代以降も対立・抗争の一方で、相互の共存・協調を構築しようとする試みもなされてきた。

オスマン帝国は、17世紀末における第二次ウィーン包囲の失敗後、バルカンをめぐってオーストリアやロシアとのあいだで軍事的対立を深めていく。そうした中で、では19世紀初頭に反オスマン蜂起が起こり、1830年にはオスマン帝国から自治権を獲得した。

その後、1848年の「諸国民の春」⁽²⁾の時期を経て、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、バルカンの⁽²⁾諸民族はオスマン帝国から徐々に独立していく。クリミア戦争後に形成されたモルダヴィア・ワラキア連合公国は1861年に自治公国となった。1875年にはでオスマン帝国への反乱が起こると、バルカン全土に衝撃が走り、各地で呼応した蜂起が発生した。ロシアがスラヴ民族の保護を名目に介入し(ロシア＝トルコ戦争)、1878年に条約が結ばれた。その後、ビスマルク⁽³⁾の仲介によって成立したベルリン条約によって、・・の独立が承認され、はオスマン帝国の公国として自治が認められた。オーストリアはの占領が認められた。のちに、オスマン帝国で1908年に青年トルコ革命が起こると、その混乱に乗じてオーストリアはを併合し、は独立を達成した。

1912年、オスマン帝国との戦争を目的として、・・・の4国間にロシアの仲介でバルカン同盟が形成され、第一次バルカン戦争が始められた。その結果、オスマン帝国によるバルカン統治は

世界史

事実上終焉を迎えることになり、戦争中に [8] も独立を宣言し、その独立が承認された。

第一次世界大戦において、バルカン諸国は協商国側・同盟国側双方に分かれて参戦した。大戦後、バルカンでは、 [1] など南スラヴ系民族がセルブ＝クロアート＝スロヴェーン王国の樹立を宣言し、1929年に統一国家 [9] に改称された。協商国側であった [7] は1919年にイギリスの支援を受けてトルコのアナトリア西部を占領したが、ムスタファ＝ケマル率いるアンカラ政府(のちのトルコ共和国)に奪回された。一方、 [6] は同盟国側にたったために敗戦国となり、1919年11月講和条約である [10] 条約を結んで、現状に対する不満を募らせていくことになった。

戦間期のバルカン諸国は、人為的に国境線が確定されたこともあり、周辺国やバルカン諸国内に領土問題を抱え、国内にも少数民族問題を抱え込んでいくことになった。他方で小国としての意識の共有と連携も模索され、1921年にはチェコスロヴァキア・ [11] ・セルブ＝クロアート＝スロヴェーン王国の提携で、相互協力とドナウ地域の緊張緩和を図る小協商が成立した。

しかし、ファシズムが台頭すると、バルカン諸国は周辺国による侵略の危機にさらされることになった。 [12] は1926年にティラナ条約で [13] を保護国化し、1939年には一方的に [13] の併合を宣言した。第一次世界大戦後、 [11] による領有が承認されていたベッサラビアをソ連が1940年に併合すると、ドイツは1941年、バルカン半島に軍を派遣し、 [14] を軍事占領したが、その中で、ティトーによる果敢なパルチザン闘争が展開され、 [14] は、その後、ほぼ自力で解放を達成した。また、枢軸国であった [11] などには1944年ソ連が侵攻した。

バルカン諸国は戦後、ほとんどの国が社会主義を採用し、多様で多難な道を歩むことになる。 [14] はソ連に対して自立路線を強めたため、1948年 [15] から除名され、独自の社会主義の道をたどった。外交的には非同盟主義をとり、ティトーらの提唱で1961年には非同盟諸国首脳会議が開かれている。

しかし、1960年代から70年代にかけて [14] では民族問題が顕在化し始め、ティトーが1980年に死去すると、その対立はより深刻な内戦へと発展し

14 は解体していった。まず、1991年に 16 とスロヴェニアが独立宣言をして内戦に突入し、さらには1992年に 17 も独立を宣言した。

17 では独立に反対する勢力のあいだで内戦が深刻化し、民族浄化と呼ばれる、各民族が互いに相手を消滅しようと集団虐殺・暴行をはかる行為が行われた。

1992年に成立した新ユーゴスラヴィア連邦(セルビア・モンテネグロ)内の 18 自治州のアルバニア系住民も92年に独立を宣言したため、新ユーゴスラヴィアはアルバニア系住民を弾圧し、米を含む NATO 空軍がセルビアへの空爆を行った。新ユーゴスラヴィア大統領 19 は、上記した弾圧や内戦で残虐行為を行なったとして、国連安保理決議に基づく旧ユーゴスラヴィア国際戦犯法廷で訴追されている。

20 は、1948年にユーゴスラヴィアとの関係を絶ち、ソ連とユーゴスラヴィアが和解すると、ソ連とも断交し独自路線を強めていった。中ソ対立が深まると中国との関係を強め、70年代には中国との関係も絶って「鎖国政策」をとるようになった。長年にわたる 20 の独自路線を支えた独裁者がホジャであり、ホジャの死去後、 20 は1991年に社会主義を放棄し、民主化を果たすことになる。

石油資源を持つ 21 も、1965年に共産党書記長になったチャウシェスクのもとで1967年に 22 と国交を樹立するなど、自主外交を展開した。チャウシェスクは国内的には恐怖政治を行っていたが、1989年ハンガリー系住民のデモに軍が発砲したティミショアラ事件を引き金に政権は崩壊した。 23 は、親ソ路線を継承し、長いあいだ、国家元首ジフコフによる体制が続いていたが、89年の市民デモでジフコフは退陣した。

バルカン諸国の多くは、体制転換後、市場経済化や民主化に努めているが、その政治・経済状況は決して安定的とは言えず、民族対立が残した爪痕も深い。しかし、バルカン諸国の歴史的相互依存関係は深い。民族対立の解決も含め、地域協力・共存のための試みが強く求められるところである。

世界史

問1 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|------------|-----------------|
| a アドリアノーブル | b アルバニア |
| c イタリア | d ギリシア |
| e サルデーニャ | f サン＝ステファノ |
| g スロヴァキア | h セルビア |
| i トリアノン | j ヌイイ |
| k ハンガリー | l フランス |
| m ブルガリア | n ボスニア・ヘルツェゴヴィナ |
| o マケドニア | p モンテネグロ |
| q ルーマニア | r ユーゴスラヴィア |

問2 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-------------|-----------------|
| a アルバニア | b イギリス |
| c イタリア | d ギリシア |
| e グルジア | f クロアチア |
| g コソヴォ | h コミンテルン |
| i コミンフォルム | j ドイツ |
| k トランシルヴァニア | l トルコ |
| m フランス | n ボスニア・ヘルツェゴヴィナ |
| o ルーマニア | p ユーゴスラヴィア |

問3 空欄 19 ~ 23 に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択

肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|---------|------------|
| a アメリカ | b アリア |
| c アルバニア | d イギリス |
| e イリエスク | f ギリシア |
| g キプロス | h デジ |
| i 西ドイツ | j ブルガリア |
| k マケドニア | l ミロシェヴィッチ |
| m ルーマニア | |

問4 下線部(1)に関して、次のア～エのうち、オスマン帝国時代につくられた非イスラム教徒の宗教別共同体の名前として正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|---------|---------|
| ア アーヤーン | イ カーヌーン |
| ウ テイマール | エ ミツレット |

問5 下線部(2)に関して、次のア～エのうち、ハンガリーで起こった民族運動やウィーンでの革命の弾圧に加わった、クロアチア総督の名前として正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|----------|-----------|
| ア イエラチッチ | イ カヴェニャック |
| ウ コシュート | エ パラツキー |

世界史

問6 下線部(3)に関して、ビスマルク首相在任期のドイツの政治に関する説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

ア ビスマルクは1878年に皇帝狙撃事件を口実に、社会主義者鎮圧法を制定し、社会主義運動を厳しく弾圧した。

イ ビスマルクは労働者を社会主義運動から切り離すために、疾病保険・災害保険・養老保険などの社会保険制度の実施を試みた。

ウ ビスマルクはプロイセン主導の中央集権化に抵抗するカトリック教徒を弾圧したが、カトリック勢力の政党である中央党の抵抗は強く、両者の闘争は収束に向かった。

エ 1879年に、産業資本家とユンカーの利益を保護するために、工業製品と農産物の輸入品に関税を課す保護関税法が制定された。

問7 下線部(4)に関して、次のア～エのうち、この会議が開催された場所として正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア カイロ

イ コロンボ

ウ デンパサル

エ ベオグラード

(白 紙)